

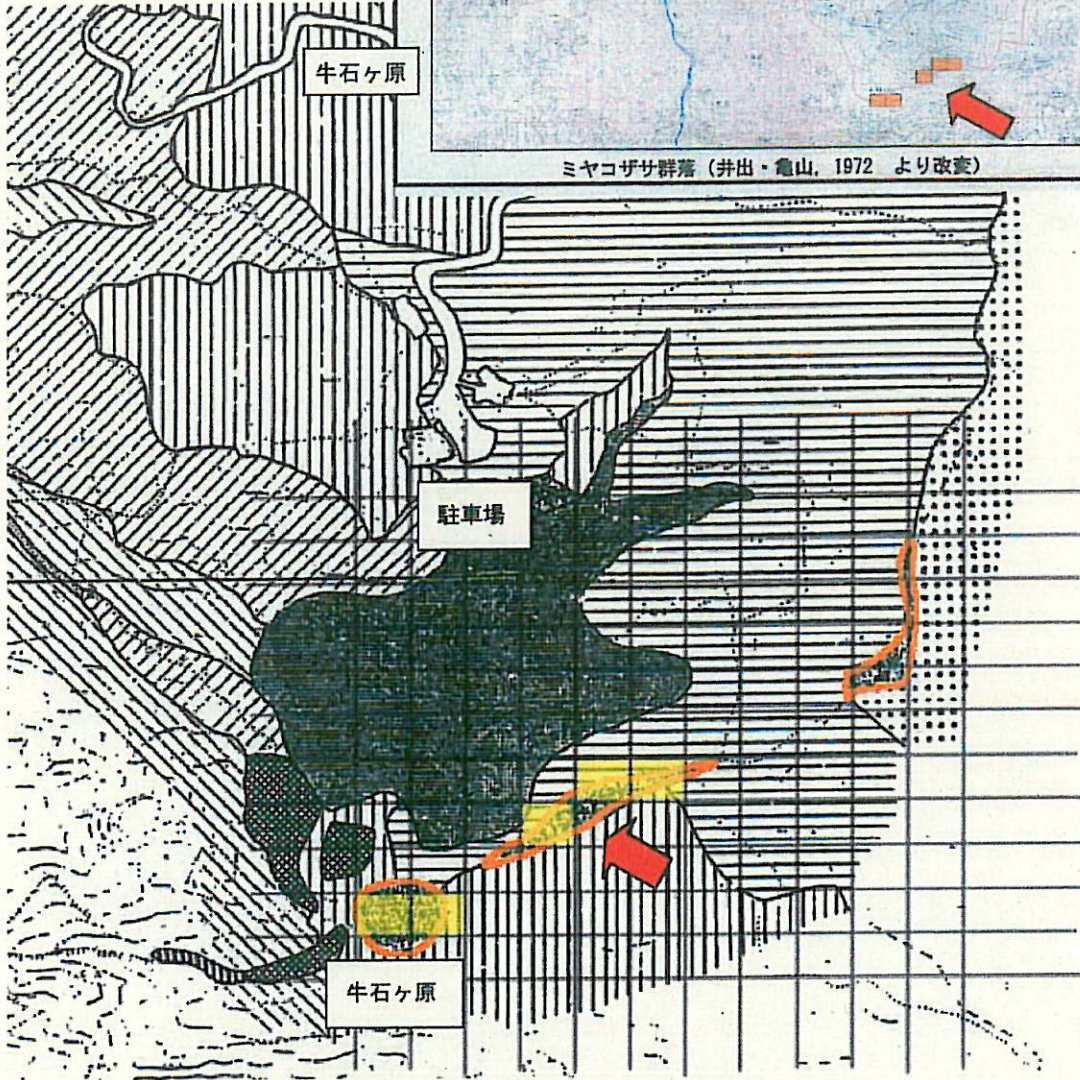
平成15年度第1回大台ヶ原自然再生検討会  
委員指摘事項と対応

項目	委員指摘事項の概要	対応
森林の経緯について	○大台ヶ原について、昭和30年代前半までの林業の実態や自然林の状況を確認しておく。	●大正年間には製紙会社による伐採が行われたが、昭和11年に国立公園指定、15年に同特別地域指定が行われたこと、昭和30年代以降周辺部において皆伐・一斉造林が進められたこと等から、周辺と比較して自然林がまとまって分布。
固有種について	○シカ被害を含めた危機的状況のもとにある種や固有種について調査が必要。	●生息・生育の可能性のある希少種や絶滅危惧種のリスト(過去に確認された種を含む)をとりまとめ中。(ただし、非公開とする。)
酸性雨について	○酸性雨による森林生態系への影響調査も必要。	●地球環境局による全国的な酸性雨長期モニタリングの一環としての調査対象地のひとつに大台ヶ原のブナ林が選定され、昨年9月より調査開始。大台ヶ原自然再生の一環としての調査については、今後専門家にヒアリングを実施し、調査手法を検討する。
マイカー規制について	○地域振興との両立を図るべき。 ○検討にあたっては、地域住民等を含めた多くの人々が参画できる仕組みづくりが必要。	●地域全体での十分な議論を通じ、地域振興との両立を図る。 ●地域住民等から幅広い意見を聞くため、現地にてワークショップを開催(9月)。また、2月にもワークショップを開催予定。
その他	○ミヤコザサ群落メッシュを確認しておく。  ○森林衰退の流れ(推定)【前回参考資料2-15】について修正が必要。	●メッシュ内において最大面積を占めていないため、メッシュ図として現れていない箇所がある。(別紙参照)  ●別紙のとおり訂正した。

1972年ミヤコザサ群落  
(メッシュ図)

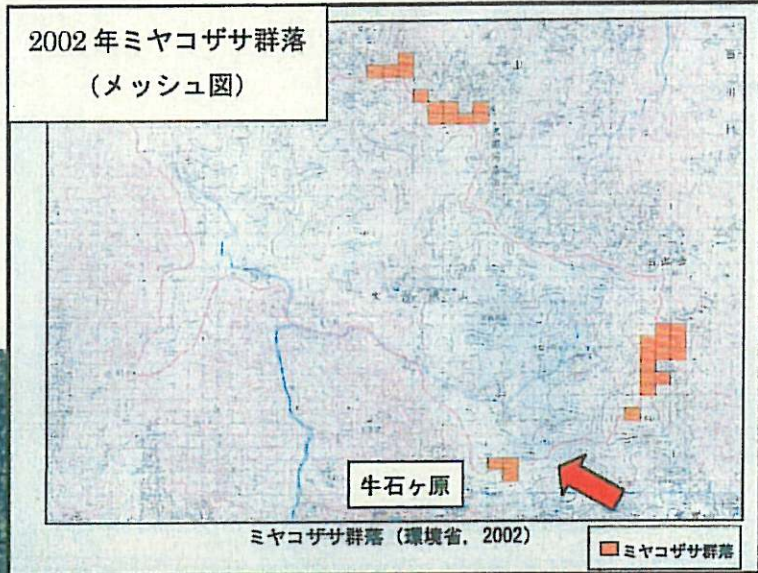


ミヤコザサ群落 (井出・亀山, 1972 より改変)



1972年の井出・亀山の植生図によるヒサゲ・イザサ群落を○で示す。  
上記の群落が占める面積が最も多いメッシュを黄色で塗りつぶしている。

2002年ミヤコザサ群落  
(メッシュ図)



1998年の航空写真より読み取ったミヤコザサ群落の部分を○で示す。  
 上記の群落が占める面積が最も多いメッシュを黄色の斜線で示している。  
 1972年の植生図における➡で示す箇所は1998年の航空写真からも読み取れるが、メッシュ内においては最大面積を占める群落ではないため、メッシュ図としては現れていない。

# 森林衰退の流れ(推定)

参考資料 2-15

